備前市事務事業評価シート

（平成23年度事業）

事業の概要

事業開始年度	平成17年度（平成9年度）	根拠法令・例規等	マイタウン・マイクロバス実施要領
総合計画 大項目 基本目標	05 住民主体の協働のまちづくり	問合先 担当課（室）	総務課
中項目 基本施策	01 住民主体で進めるまちづくり	職・氏名	係長 河井 健治
小項目 施策	01 広聴広報	電話	0869-64-1800
事務事業名	03 施設見学会事業	このシート作成に要した時間	1.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	市民レベルで組織された各種任意団体・サークル等
目的（何のために）	市民参加の行政を進めるうえで、市民の市政に対する理解・協力は必要不可欠なものであり、市民に市内の公共施設等を見学してもらうことで市政に対する理解と関心を深めていただく
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	開催回数と参加人数が増加することで、多くの市民に市政に対する理解と関心を深めていただく

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
マイタウンマイクロバス運営事業	15人以上（25人未満）の団体等からの申し込みにより、市内公共施設を半日間市のバスで案内し、各担当者から施設の業務内容や利用方法などを説明する 23年度、3団体（野谷やまびこ会（野谷）、伊里地区老人クラブ（穂浪）、サロン西村（香登西2回実施））・83人	▲

事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
事業費	直接事業費	千円	0	0	0
	必要人員 人件費		0.01人 93	0.01人 59	0.02人 159
	事業費計		93	59	159
決算額 財源	国県支出金	千円			
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（ ）				
	一般財源		93	59	159
受益者負担比率		%	―	―	―

結果指標名		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
結果指標 開催回数		説明	マイタウンマイクロバスの開催回数		
	結果指標量	回	2	4	4
	対前年比	%	―	200.0%	100.0%
	活動コスト	円	93,000	59,000	159,000
	単位当たりコスト		46,500	14,750	39,750

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標であるる成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
開催率（%）	目標値（A）	100	100	100	100
	実績値（B）	100	100	100	到達目標値
	達成率（B/A）	100.00%	100.00%	100.00%	100

成果指標設定の考え方・式や説明：開催数／申込数

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ ＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性 必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ■ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ■ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- □ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ■ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている

市民ニーズ

- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い ～ E 低い）：**D**

効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高い ～ E 低い）：**D**

有効性の評価

目的達成度 市民参画度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ■ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務 であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高い ～ E 低い）：**D**

進行年度（H24年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

説明：利用希望団体が偏った傾向にあるが、開催希望者が主体的に市政に対して理解を深めたいという意向を尊重し、コミュニティづくりのきっかけになるように制度は継続するが、実施方法を改善するべき時期にきている

総合評価

市内公共施設を市のバスで案内し、各施設の業務内容や利用方法を理解していただくことの有効性はあるが、利用団体が偏ってきている。バス運行も民間委託となったことから今後の事業展開を決定する必要がある

総合評価（A 高いや ～ E 低いや）：**D**

Action

平成25年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

取組目標：利用希望団体が少なく、事業の有効性はあるものの本来の趣旨とは違った形になっており、事業継続しても効果は期待できない。利用団体も偏っていることから事業の廃止を検討する